
スマブラベースボール～作者陣との勝負～

ikki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラベースボール〜作者陣との勝負〜

【Nコード】

N7464R

【作者名】

ikkiki

【あらすじ】

スマブラVS作者さんシリーズ第2弾！

果たして、野球で強いのは、スマブラか、作者さんなのか・・・

プレイボール！

まずは・・・（前書き）

野球小説スタートです！

（野球知らない人には難しいかも・・・）

まずは・・・

とある日スマブラメンバー、そして作者さんが野球場に集められていた・・・（河川敷的な球場）

マスハン「スマブラ軍VS作者さんベースボール、開幕〜！」

マリオ「イエ〜イ！」

ソニック「野球だ〜！〜！」

カービィ「ヤッター！」

喜ぶスマブラ軍。

k「楽しみですね。」

ダピカ（擬人化）「勝負するなら、勝ちたいよな。」

さきぼん「野球自信ない・・・」

スイツクン「大丈夫ですよ！多分！」

作者さんも、気合は十分（？）だ。

マスハン「え、これから簡単に言えば、

スマブラチーム、作者チームに分かれて野球をします！」

ガノン「分かっとるわい。」

しょうたろう「まあまあ。」

マスハン「え、……ちなみに、勝利チームには、トロフィー、副賞に、

賞金900万を用意しました！」

全員「うおー!~!」

マリオ「金!」

ルイージ「1000万でいいじゃん!キリがいいし!」

アイク「わがまま言っな!」

ダピカ「900万!?」

ワーグナー「やりますね・・・」

冬来「勝ちたい・・・」

ちなみに、集まった作者さんは、

ワーグナーさん

さきぽんさん

kさん

リリカルショーバイさん

ダピカさん

冬来さん

しょうたろうさん

スイツクンさん

ゆうやんさん

ikkiki（監督）

の10人。

スマブラ軍

スマブラ軍団全員（ドクターマリオと子供リンクは、かぶりのため
除く）

マスハン（監督）

次回、試合開始です！

まずは・・・（後書き）

グダグダだ・・・

もしかしたら、この連休で完結するかも・・・

スタメン発表！（前書き）

スタメン発表！

かなり更新遅れました・・・

スタメン発表！

あの開幕式？の後、一塁ベンチにスマブラメンバー。

三塁ベンチに作者メンバーが集合した。

一塁ベンチ・・・スタメン決め

マスハン「さて・・・と。スタメンどうする？」

マリオ「お前監督だろ？自分で決めないのかよ！？」

マスハン「いいのか？俺の決めたスタメンで。」

アイク「いいんじゃないのか？不安だけど・・・」

ネス「スタメン怖いけど・・・いいよ！」

マスハン「分かった。作戦通り行くといいが・・・」

スマブラチーム、スタメン決定。

一方の作者さんチーム・・・

i k k i「どうします？スタメン」

冬来「うーん・・・」

ワグナー「以外と難しいかも・・・」

k「人数は圧倒的に少ないですからね・・・」

監督を i k k i として、スタメンを組むと、9人でギリギリのメン
バー。

ゆうやん「うーん・・・監督に任せます！」

リリカルショーバイ「大丈夫じゃないですか？ i k k i さんなら。」

i k k i に任せるメンバーもいる。
果たして、監督の下す起用は・・・

i k k i「よし！決めました！もちろん全員出場です！」

果たして、監督の起用とは・・・

~~~~~

実況「いよいよ始まりますスマブラ軍VS作者陣の親善試合！」

解説「始まりましたね〜！」

実況「はい！果たして、勝者はどちらなのでしょう？スターティングメンバーの発表です！」

「これより、スターティングメンバーの発表をいたします。」

観客「オオーーーーー！！！」

ちなみに、観客はドームでも立派な球場でもないのに約6000人が集まった。

「先行、作者チームの発表です。

- 1番、センター、ダークピカチュウ
  - 2番、ライト、リリカルシヨールバイ
  - 3番、ファースト、ワーグナー
  - 4番、キャッチャー、k
  - 5番、セカンド、ゆうやん
  - 6番、ショート、さきぼん
  - 7番、サード、冬来雪亜
  - 8番、レフト、スイツケン
  - 9番、ピッチャー、しょうたろう
- 以上です。」

観客「オオ・・・・・・・・」

マスハン「相手、1番ダークピカチュウは予想していたが、後は予想してないな・・・」

「続いて、スマブラ軍のスターティングメンバーの発表です。

- 1番、シヨート、ソニック
  - 2番、レフト、ルカリオ
  - 3番、ファースト、ネス
  - 4番、ライト、アイク
  - 5番、キャッチャー、デデデ
  - 6番、セカンド、スネーク
  - 7番、サード、リンク
  - 8番、センター、フォックス
  - 9番、ピッチャー、ファルコ
- 以上です。」

観客「オォー・・・」

ikkii「やっぱりマスハン監督能力高いな・・・」

実況「では、まもなくプレイボールです！」

次回、ついにプレイボール！

スタメン発表！（後書き）

次回の更新はいつになるやら・・・

## 1 回表（前書き）

何日かかったやら・・・

## 1 回表

審判「プレイボール！」

観客「ウォォー！！！」

試合が始まった・・・

アナウンス「1 回の表、作者チームの攻撃です。  
1 番、センタ  
ー、ダークピカチュウ」

ダピカ「よっしゃあ！打つたるで！」

ダピカさんは、バッターボックスに向かう。

ファルコ「フリー・・・なるべくヒットは出ないようにするわ。」

デデデ「任せたゾイ。」

呑気に話すファルコ、デデデバッテリー。

実況「さあ、先頭バッターはダークピカチュウ選手です。」

解説「彼は、打力よりも、走力で押すタイプですからね。」

ダピカ「さあ来い、鳥とド○ベンバッテリー！」

ファルコ「おい！」

デデデ「ワガハイ、ただ体型だけだゾイ！」

ファルコ「まあいい。とうっ！」

ファルコ、ダピカさんに第一球！

ダピカ「トリヤア！」

コン！

転がった先は、サード、リンクの目の前・・・

リンク「よし！サードコロー！」

リンク、綺麗なグラブさばきで1OUT・・・

一塁審判「セーフ！」

ではない・・・

ダピカ「よっしゃあ！俺の走力は伊達じゃないぜ！」

ソニックとほぼ同じの走力を持つダピカさん、足をうまく使い内野安打。

アナウンス「2番、ライト、リリカルショーバイ」

リリショー「私ですね。なるべくヒット狙います！」

さきぼん「頑張って〜！」

2番バッター、リリショーさんがバッターボックスに向かう。

ファルコ「次は打ち取る・・・」

意気込むファルコ。宣言通り、2球で2ストライクを取り、追い込

んだ。

リリショー「あゝ・・・ファルコ強い・・・」

デデデ「アウト取れるゾイ！」

ファルコ「はぁ・・・追い込んだ・・・」

追い込んだファルコ。はたして、次に投げるのは！？

ファルコ「とうっ！」

打ちに来ると思い、低めに投げたファルコ。

リリシヨ―「えいつ！」

しかし、対するリリシヨ―さんは、バントの構え。

コン。

低めに投げていたので、もちろん送りバントは成功。1アウトランナー2塁

ゆうやん「ナイスバント！」

ワーグナー「よし！！得点圏で・・・あ、次僕ですね。」

アナウンス「3番、ワーグナー」

ファルコ「うわ・・・クリーンアップか・・・」

デデデ「気合い入れていくゾイ！」

1アウト2塁で、クリーンアップは厳しい。  
それは、プロでも同様である。

ビシュ！！

ワーグナー「トウッ！！」

スカッ！！

審判「ストライク！」

しかし、ファルコは持ち前の球速と得意のスライダーで、  
2ストライクまで追い込んだ。

ファルコ「追い込んだぞ・・・」

ワーグナー「追い込まれた・・・」

ビシュッ！！！！

カン！！

審判「ファール!!」

しかし、ファールで粘る。

果たして、どちらに軍配が上がるのか!?

ファルコ「とうっ!!」

ビシュッ!!

ワグナー「うおおー!!」

カキーン!

ワグナーさんの打った打球は、センターのど真ん中。

ポスッ。

フォックス、見事キャッチ。

ダピカ「スタート!!」

ダピカさん、タッチアップで3塁を狙う!

フォックス「とりやああ!!!!」

しかし、捕球後、フォックスも好返球で阻止を狙う！

ダピカ「ウオオオー!!!!」

リンク「させるかー!!!!」

ズシャアアアア・・・

俊足のダピカさんだが、フライが浅かったせいか、クロスプレイになった。

審判「・・・・・・・・」

判定は・・・

審判「アウト！」

リンクのナイスブロックにより、帰還失敗。

スマブラ選抜、1アウト2塁のピンチを0で切り抜けた。

1 回表のスコアボードに0が刻まれた今回の試合。

果たして、裏のスマブラチームの攻撃はどうなるのか!?

次回に続く。

## 1 回表（後書き）

次回は、1 回裏です！

## 1 回裏（前書き）

遅れて投稿です！

## 1 回裏

実況「さあ、1 回表は 0 点で終わった作者チーム。次は、スマブラ選抜チームの攻撃です。」

アナウンス「先発ピッチャーは、しょうたろう選手。」

観客「オオーーーー!!!」

ikki (監) 「しょうたろっさんはスライダーとフォークが得意だから・・・」

(スライダーは右に曲がる変化球。フォークは下に落ちる変化球。)

アナウンス 「1番、ショート、ソニック。」

k (捕) 「俊足のソニック・・・油断できないな・・・」

ソニック「まあ、ヒット打つか！」

バッターボックスに入るソニック。

しょうたろう（投）「内野ゴロにしても、ソニックだったら内野安打になるからな．．．」

ピッチャーは、1球1球に油断ができないため、精神的にも肉体的にもつかれるのだ。

k (捕) (ソニックだったら・・・このリードでいいかな?)

リードをするkさん。

しょうたろう (投) 「とっつ」

投げたボールは、ソニックの外角低め。

ソニック「来たぜ！ フルスイング！」

スコーン！！

ソニックのスイングは、空を切ってミットに吸い込まれた。

ソニック「なかなか直球鋭いな・・・」

体勢を整えるソニック。

その後、1球外したボール球をソニックが空振り。  
2ストライク  
まで追い込んだ。

ソニック「クソ……ボール球って分かってても空振りしちゃう・  
・」

しょうたろう（投）「追い込んだ・・・」

k（捕）（追い込んだぜ・・・次は・・・この位置なんてどうかな？）

kさんのリードした位置は、ストライクゾーンギリギリの真ん中高め。

しょうたろう（投）「・・・」（コクッ）

しょうたろっさんもうなずいた。

しょうたろっ（空振り取るぜ・・・）      ビシュッ！！

投げた位置は、見事真ん中高め・・・

ソニック「トリヤア！！！」

スカッ！

前の2球よりもはるかに力強いフルスイング。

しかし、バットは空を切った・・・

審判「ストライク！ バッターアウト！」

ソニック、三球三振で一アウト。

ソニック「悔しいな・・・バットにも当たらなかった・・・」

k (捕)「ナイスピッチ!」

しょうたろう (投)「ナイスリード!」

三振に仕留めたバッテリー。

アナウンス「2番、レフト、ルカリオ」

ルカリオ「よっしゃあ！気合い入れていくぜ！」

俊足巧打のルカリオ。

彼はバッティングにも期待がかかる。

k (捕) (これは一筋縄ではないかな・・・どうしよう・・・)

しょうたろう (投) 「とりあえず1球投げてみるか・・・」

さすがに強打者を相手に、ひるむ2人。

k（捕）（でも、勝負することも大事だ！ココ！）

リードしたのは、内角低め。

しょうたろう（投）「……………」（コケッ）

ビシュッー！

ストレートを投げたしょうたろうさん。

しかし、力んだのか、高めに浮いてしまった。

しょうたろう（投）「しまった！」

k（捕）「ウツ・・・」

ルカリオ「とおっ！」

コッソッソ！

ルカリオ「ヤバッ！」

しかし、直球に力があつたため、飛距離が全く出ずキャッチャーフライになってしまった。

ポスッ！

それを、kさんがキャッチし、2アウト

しょうたろう（投）「危なかった・・・」

なんとか助かった。

その後、3番ネスをフルカウントに追い込んだバッテリー。

しょうたろう（投）「とりゃあ！」      ビシュッ！

ネス「うわっ！」

スカッ！

そのネスも、フォークで空振りを取り、1回裏をノーヒット2三振で抑えた。

k (捕) 「ナイスピッチ！」

しょうたろう (投) 「良かった・・・」

実況 「いやー！しょうたろう投手はナイスピッチングでしたね。」

解説 「そうですね。力強いストレート、落ちるフォークには目が離せませんね。」

！  
実況「ありがとうございます。」

次回は、2回表です！楽しみに

次回に続く。

## 1 回裏（後書き）

マリオ「そういえば・・・」

さきぼん「今回、作者チーム、kさんとうたろうさんしか出てないよね・・・」

ワグナー「確かに・・・」

ikk i「気にしない。気にしない。」

## 2 回表（前書き）

更新遅れました！

これから更新UP予定です！

## 2 回表

「実況「1回が終了し、両チーム無得点。次は作者チームの攻撃です。」

「アナウンス「作者チームの攻撃、4番、k選手」

「k「よし!!ヒット打ってくるぞ!」

バッターボックスに向かうkさん。

ファルコ（投）「4番を抑えないとな・・・」

デデデ（捕）「よし！頑張ろう！」

バッテリーも抑えようと必死である。

k「どちらかというと、  
つなぐ4番だからランナーいてほしかった  
な・・・」

つなぐ4番のkさん。塁に出られるか!?

ファルコ(投)「よしーいぐぜー!」

ビシュッ!

投げたのは、外角低めのストレート。

k（来た・・・絶好球！）

カーン！！

フルスイングした打球は、一二塁間に転がる鋭いゴロ。

スネーク（二）「打球速っ！！」

それを二塁のスネークがキャッチできず、ライトに転がるシングルヒット。

k「よし！役目は果たさせたぜ！」

一塁ベースで喜ぶkさん。

冬来「ナイスバッティング!!」

ワグナー「先制点取ろうよ!!」

ベンチも一打に沸いた。

アナウンス「5番、ゆうやん選手。」

ゆうやん「よし！絶対次につないでやる！！」

果たして、ランナーを進められるか？

ファルコ（投）「クソォ・・・ノーアウトからランナーを出すとは・・・」

デデデ（捕）「絶対二塁は踏まさせないゾイ・・・」

警戒するバツテリィ。

ゆうちゃん「さあ、来い！」

打席に入っ たゆうやんさん。

クリーンアップとはいえ、バントの構え。

ファルコ（投）「バントとは卑怯な・・・」

ビシュッ!!

バントを警戒しながら投げた一球目は、外角外れてボール。

ゆうやん「やっぱり相手も見ってくるな・・・」

バントの体制を戻し、ボールを選んだゆうやんさん。

ゆうやん「絶対成功させる・・・」

再びバントの姿勢のゆうやんさん。

ファルコ（投）「フウ……トリヤア！」

ビシャアア！！

バントを警戒した一投は、真ん中高めのストレート。

ゆうやん「バントだと思うなよー！」

しかし、投球直後にバント体勢からバッティング体制に入ったゆうやんさん。

k「バスターか!？」

i k k i「バスター行えっ!！」

ゆうちゃん「とりゃああー!」

スカッ!

しかし、バスターでのスイングは空を切り空振り。

ゆうちゃん「へへへ・・・空振っちゃった・・・」

苦笑いを浮かべるゆうちゃんさん。

ファルコ（投）「なんとか空振り取れた・・・次だ!!」

ビシャアア!!

またしても、真ん中高めのストレート。

ゆうちゃん「送らせてくれ〜！」

コン…！

バントの結果はファールゾーンに転がり、バントは失敗だった。

ゆうちゃん「うわぁ・・・追い込まれた・・・」

2ストライクと追い込まれたゆうちゃんさん。

ファルコ（投）「よし・・・三振狙えるぞ・・・」

しかし、ゆうちゃんはバントの構え。

ファルコ（投）（どうすればいいんだ・・・デデデ！）

デデデのリードを待つファルコ。

デデデデ（捕）・・・どつすればいいんだ・・・！！！！これだ！！！！（

デデデが出したサインは、牽制のサイン。

ファルコ（投）（！！！！）

ファルコはサインを見た瞬間、一塁へ全力で牽制をした。

ビシャアア!!

k「うわっ！牽制か!？」

急いで戻るkさん。

審判「・・・アウト!!」

しかしファルコの牽制は鋭く、また飛んできた位置も良かったため  
戻れなかった・・・

k「うわぁ・・・くやしいな・・・」

がっかりするkさん。      これで1アウトランナー無しとなった。

ゆうやん「うわぁ・・・やられた・・・」

その後、ゆうやんさんはファルコのスライダーで空振り、2アウトとなった。

アナウンス「6番、さきばん選手」

さきぽん「よし！行ってくるよ！！」

バッターボックスに向かうさきぽんさん。

ファルコ（投）「相手は女子だし、ちょっとスタミナ温存作戦かな・  
・」

油断するファルコ。

さきぼん「絶対打ち返す・・・」

果たして、この勝負の結果は！？

ファルコ（投）「とっっ！」

ビシュ！！

デデデのサインもろくに見ずに投げたのは、ど真ん中のストレート。

さきぼん「トリヤアアア！！！！」

カキーン！！

油断したファルコの甘い球を真っ芯でとらえた打球は、センターへの強烈なライナー。

スネーク（セ）「うおっ！とどかねえ！！」

センター、スネークの頭上も越えさきぽんさんは二塁へ。

さきぽん「どんなもんだい！」

高らかとガッツポーズをするさきぽんさん。

ファルコ（投）「うわぁ・・・油断って恐ろしいな・・・」

啞然とするファルコ。

デデデ（捕）「油断したらダメゾイ!!」

サインを無視して投げたファルコに詰め寄るデデデ。

ファルコ（投）「すまん・・・次からは全力投球でいくぜ・・・」

謝るファルコ。

デデデは、キャッチャーの位置へと戻った。

アナウンス「7番、冬来雪亜選手」

冬来「よし！先制点取る！」

気合十分にバッターボックスに立つ冬来さん。

i k k i 「ここで先制点欲しいよねー!!」

スイツクン「ファルコを攻略して〜!」

リリショー「かつ飛ばせー!! 冬来!!」

味方ベンチから応援の声が飛ぶ。

冬来（大丈夫・・・ベンチから見てたけど、ファルコの変化球はスライダーだけ・・・  
いける！）

ずっとファルコの投球を視察した冬来さん。

ファルコ（投）「クッ・・・点はとらせねえ！」

ビシャアア!!

ファルコが投げたのは外角高めのストレート。

冬来「とりゃああ!!」

カキーン!!

ファルコ(投)「うわっ!」

芯で捉えた打球は、ファールゾーンに飛び込んだ弾丸ライナー。

ファルコ（投）「……あぶねえ……」

冬来「んっ……もうちよつとかな……」

大ファールの後の第2球は！？

ファルコ（投）「とりゃああー!!」

ビシュッ！

冬来「・・・」

審判「ボール！」

冬来さんは、2球目をボール。

審判「ボール！」

3球目・・・

審判「ボール！」

4球目も最強の選球眼を使い、カウントは3ボール1ストライクとなった。

ファルコ（投）「一筋縄ではいかないな・・・」

苦戦するファルコ。

冬来「よし！来い！」

ファルコ（投）「とりゃあ！！」

ビシュッ！

投げたのは、真ん中低めのストレート。

冬来「クッ！」

カコン！

バットに当てはしたものの、鈍い音とともに打球は後ろに飛んだ。

冬来「フルカウント・・・」

追い込まれた冬来さん。

ファルコ（投）（今こそ・・・食らえ！）

さきぽん「えいつ！」

2塁ランナーのさきぽんさんも、ヒットエンドランを仕掛ける。

ファルコ（投）（頼む！！）

投げたのは、低めの変化球。

冬来「来た・・・スライダー!!」

冬来「とうっ!!」

フルスイングする冬来さん。

スコッ！！

審判「ストライク！バッターアウト！！チェンジ！」

しかし、バットは空を切り三振。

ファルコ（投）「ヨッシャアア！！」

マウンドで雄叫びを上げるファルコ。

冬来「えっ！スライダーじゃなかった・・・」

狙い撃ちが外れ、落ち込む冬来さん。

ゆうやん「惜しかったな」・・・」

しょうたろう「さっきの球、初めて見た球種です。」

ikkii「・・・チェンジアップだ・・・」

ランナーを2度塁に置くも、決定打を欠き、無得点に終わった作者チーム。

4 / 5 / 6 番の強打者をピッチャー、しょうたろさんは打ち取れ

るのか!?

## 2 回表（後書き）

新作のオールスター逃走中いつから書こうかな・・・

## 2 回裏（前書き）

この頃更新が全体的に遅れてる・・・どうしよう・・・

## 2回裏

実況「これより、2回裏の攻撃になります!!」

アナウンス「2回裏、スマブラ選抜チームの攻撃。  
4番、ライト、アイク」

アイク「よし！4番の力を見せてやるぜ！！」

バッターボックスに入るアイク。

しょうたろう（投）「怖いな・・・一発も出るし・・・」

警戒するしょうたろうさん。

ビシュッ！

投げたのは、外角に外れたスライダー。

審判「ボール！！」

アイク「フリー・・・明らかなボール球・・・」

スイングしかけたものの、思いとどまったアイク。

しょうたろう（投）「先制点を取られるわけには……とりゃあ！」

ビシャアア!!

気合を込めて投げた一球は、ど真ん中ストレート。

アイク「何っ！」

ポスッ！！

審判「ストライク！」

ど真ん中に手が出なかったアイク。

k（捕）「良かった・・・作戦成功・・・」

しょうたろう（投）「良かった・・・打たれなくて・・・」

その後一球外してボールにしたものの、次はキレのいいスライダーで空振りを奪った。

これで2ストライク1ボール。

アイク「ここからだ・・・粘るぞ・・・」

しょうたろう（投）（絶対に打たせない・・・とりやああ！）

ビシュッ！

三振狙いで投げたのは、真ん中低めに落ちるフォーク。

アイク「狙った!!」

カキーン!!

観客「うおおー!!」

しょうたろう（投）「うわっ！」

フォークをフルスイングした打球は、ライトスタンドのポール際に飛んだ。

審判「ファール！」

しかし、わずかに左にきれてファールとなった。

アイク「あゝ．．．惜しいな．．．」

しょうたろう（投）「助かった．．．」

k（捕）（アイク．．．4番なだけある．．．）

そして、さらに二球続けてファールとなって七球目・・・

しょうたろう（投）（もうこれ以上スタミナを減らしたくない・・・  
えいっ！）

ビシャアア！！！！

気迫のこもった球は、インコース高めに決まるストレート。

アイク「うわっ！」

打ちにくいコースだったために、手が出なかったアイク。

審判「ストライク！バッターアウト！！」

大きなファールを打ったものの、ナイスピッチングで見逃し三振に打ち取られたアイク。

しょうたろう（投）「あのファールは危なかった・・・」

アナウンス「5番 デデデ」

デデデ「よし！打つやるゾー！ー！」

しかし、次なる敵はまたも強打者のデデデ・・・

しょうたろう（投）「また強打者・・・こういつ時は・・・」

ビシュッ！

強打者を警戒して投げた一球目は、内角高めに決まるスライダー。

審判「ストライク!!」

アイクも手が出なかった位置に投げ、1ストライクを取ったしょうたろうさん。

デデデ「あれは見送るゾイ。」

しかし、デデデに焦りの表情はなかった。

k (捕) (デデデのこの表情・・・ここだ！)

すると、今度はkさんが積極的なリード。

しょうたろう」・・・よし・・・

ビシュッ！

kさんのリードは、インコースから更に中に入るスライダー。

デデデ「うわっ！そう来たかゾイ！」

しかし、うっかり振ってしまったデデデ。

コン！

思いっきり芯を外された打球は、ボテボテのサードゴロ。

冬来（三）「よし！ナイスピッチング！」

三塁の冬来さんが華麗なグラブさばきで一塁に送球・・・

ワグナー（一）「これで2アウト!!」

それをワグナーさんがキャッチして2アウト。

デデデ「うん・・・悔しい・・・」

- ・ もちろん、足の遅いデデデは内野安打にすることが出来なかった・・・

アナウンス「6番 スネーク」

スネーク「フツ・・・ショータイムだ。」

アイク、デデデを抑えた後のバッテリーボックスには、スネーク。

しょうたろう（投）「ここを抑えれば、次は攻撃だ・・・とうっ！」

ビシャーア！

スネークへの初球は、外角低めを狙ったストレート。

スネーク「・・・」

スネークは、それを見送る・・・

審判「ボール！」

スネーク、抜群の選球眼でボールを見抜く・・・

k（捕）（スネーク・・・一筋縄ではいかないな・・・）

その後、ストライクゾーンギリギリを攻め続けるバッテリ。

審判「ボール！」

k（捕）「クッ・・・本当にギリギリなのに・・・」

審判「ボール！！」

しょうたろう（投）「やっぱり他のバッターとは何かが違う・・・」

しかし、スネークの抜群の判断力でノーストライク、3ボールと追  
い詰められた。

しょうたろう（投）（もしかして・・・真ん中とかは・・・）

ここで、スネークはストライクでも振らないのでは？と思い始めた  
しょうたろうさん。

しょうたろう（投）（ものは試した。とうっ！）

ビシャアア！！

しょうたろうさんが狙ったのは、ど真ん中のストレート。

k（捕）「うわっ！すっぱ抜けた！」

しかし、カんだせいか、ストライクゾーンからは大きく外れた。

審判「ボール！　フォアボール！」

スネーク「よし。とりあえず出塁だ。」

ここで、初めてランナーを許した作者陣バッテリー。

アナウンス「7番 リンク」

リンク「うわゝ．．．緊張するなゝ．．．」

そして、ここで迎えるバッターはリンク。

しょうたろう（投）「ランナーを出したとはいえ2アウト・・・き  
つちり抑えよう。」

ここで、冷静さを取り戻したしょうたろうさん。

テンポのいいピッチングをして、  
三球で2ストライク1ボールとして追い込んだ。

リンク「負けない・・・打つ!!」

しかし、ここでやる気の入るリンク。

k（捕）（・・・これはフルスイングしてくるな・・・）

しかし、それをすぐさま感じ取ったバッテリー。

しょうたろう（投）「・・・とっっ」

ビシュッ!!

kさんのリード通り投げたのは、外角高めのフォーク。

リンク「トリヤアアアー!!!」

コン!

リンクはフルスイングするものの、芯を外された打球は、ファーストへのゴロ。

ワグナー（一）「OK! 3アウト!」

これを捕球したワグナーさんがそのまま一塁を踏んで3アウト。

リンク「・・・うわー！！もう少し落ち着いて振れば良かったな・・・」

しょうたろう（投）「ナイスリード！！」

k（捕）「そんなことないよ！！」

実況「2回も両者無失点。次回は、3回表です！」

## 2 回裏（後書き）

あと2か月ぐらいで「小説家になろう」で書き始めて1年か・・・

ここまでのダイジェスト&少し3回表(前書き)

更新遅れました！

最近逃走中の方に時間取ってるからね・・・

## これまでのダイジェスト&少し3回表

〜〜2回までの途中経過〜〜

今日の先発はしょうたろっさんとファルコ。

## 1回表

ファルコの立ち上がり。

しかし、先頭打者を塁に出して送りバントを決められ、1アウト2塁。

ファルコ「とりゃあ!!」

ビシャアア!!

ワグナー（バッター）「とうっ!!」

カーン!

ヒューー……

フォックス「OK!!」

ポスッ!

次のバッターをセンターフライに打ち取るものの、2塁ランナーがタッチアップ。

フォックス「させるか!!」

ビシュアア!

ダピカ(ランナー)「とりやああ!!」

ズシャア!!

3塁審判「アウト!!」

しかしフォックスの好返球もあり、得点圏にランナーを背負います

が初回を0に抑えます。

## 1回裏

1回からランナーを出してしまったファルコとは裏腹に、しょうたろうさんは立ち上がりから上々のピッチング。

2回までランナーを1人も出さないノーヒットピッチングで序盤を有利に進めます。

## 2回

ファルコは、2回にもランナーを得点圏に背負いますが、牽制、三振で難を逃れます。

しょうたろうさんはこの回もランナーを1人も出さないピッチングを披露します。

そして、これから3回の表に・・・

実況「さあ、現在2回が終了してはまだ無得点。」

解説「もうそろそろ先制点を取っておきたいですね！」

アナウンス「3回の表、作者チームの攻撃。8番、レフト、スウィックン選手。」

スウィックン「えっと・・・次は私ですね。頑張ってきます!!」

バッターボックスに向かう先頭バッターのスイッケンさん。

ファルコ「さっきはツーベース打たれたからな・・・女だからって手加減しないぜ・・・」

毎回得点圏にランナーを進めているファルコ。

スイッケン「よし！打つぞ！」

ファルコ「フウ・・・とっっ」

ビシャアアア!!

ファルコが投げたのは、アウトコースギリギリを狙ったストレート。

審判「ボール!!」

しかし、ストライクゾーンに惜しくも届かない。

ファルコ「チツ・・・入らないか・・・」

その後、ストライクゾーンギリギリの狙って投げるも、コントロール

ルが定まらずに四球となった。

審判「フォアボール!!」

スウィクン「よし! 出塁ね。」

スウィクンさんが出塁し、ノーアウト1塁になった。

アナウンス「9番 ピッチャー しょうたろう選手」

しようたろう「よし！とりあえず得点圏にスウィックンさんを進める  
ことだけ考えよう・・・」

バッターボックスに入るしようたろうさん。

ファルコ「クソッ！何でストライクゾーンに入らねんだ！」

一方のファルコは、先程のフォアボールで気がたっている。

デデデ（捕）「ヤバいゾイ・・・ファルコの気がたってるぞい・・・  
」（汗）

一方、捕手のデデデはファルコを落ち着かせるためにストライクゾーンの真ん中にリードした。

ファルコ（あんなところに投げられるかよ・・・適当に投げとけ・・・）

ビシュッ！！

デデデを無視して投げた初球は、ストライクゾーンはおろかしゅうたろうさんのヘルメットに直撃。

しょうたろう「ぐわっ!!」

しょうたろうさんも避けようとはしたものの、ヘルメットに直撃した。

審判「デッドボール!!」

デッドボールを宣告した審判は、ファルコのもとへ・・・

審判「次あんな酷い球投げたら退場だからな。」

ファルコ「ああ。すまなかった。」

危険球に気を付けるよう指示した審判。

ikkii「しょうたろうさん、大丈夫ですか？」

しょうたろう「・・・」

k「タイム！しょうたろうさん気を失ってます！」

一方、死球を受けたしょうたろうさんは気を失っていた。

審判「後頭部に当たったからな・・・担架で運んでもらおう。」

しょうたろうさんはそのまま担架で治療室に運ばれた・・・

数分後・・・

審判「i k k i 監督、代走お願いします。プレイ続行不可能です。」

i k k i「うわっ！負傷退場かよ・・・てか代走どころか控えいな  
いし・・・」

作者チームに控えゼロのピンチ！

果たして、どうなるのか！？

次回に続く。

## ここまでのダイジェスト&少し3回表（後書き）

もう少しで部活が引退・・・終わったらどんな人生が待っているんだろ・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7464r/>

---

スマブラベースボール～作者陣との勝負～

2011年10月7日15時29分発行